

昭和45年 6月号

昭和45年6月15日発行(隔月刊)

発行人
海事思想普及委員会
東京都港区芝虎ノ門15(虎ノ門ビル7階)
電話・東京03(503)6014 〒105
社団法人 日本外洋帆走協会

—NORCだより発刊にあたり— 知識・体験・意見など発表の場に

関谷健哉

かえりみるとNORCが社団法人日本外洋帆走協会として発足してから7年目にはいりました。その間年を追ってヨットの数がふえ、会員もますます増加し、もろもろの機構が整備される一方国際レースに出場される方々も相つぎ、協会が極めて順調に成長しつつあることはまことに同慶の至りであります。

そして同時にさきごろ苦しいながら現在のところ本部をかまえるまで、長い期間にわたりお世話になった日本海事広報協会の絶大なご好意に対し、心から感謝の意を表したいと思ひます。

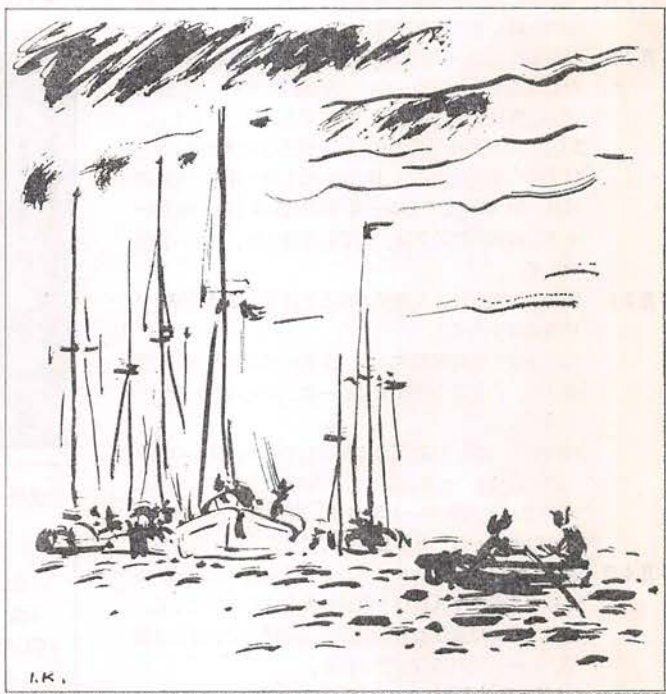
時あたかも70年代にはいったことでもあるので、これまでの「NORCニュース」のおもむきを少し変え「NORCだより」と名を改めて、偶数月ごとに発行することになりました。このねらいとしては、従来とかく本部あるいは各支部からニュースのたぐいを流すのがおもな目的であったのを、これからそれを続けるのは当然ですが、同時にあまねく会員の方々がそれぞれ持合わせておられる知識、体験、意見、思ひつきなどを発表される場としていきたいのです。

各自の年齢、ヨット歴などといったものにこだわらないで、自由に軽い気持ちでぜひともこの場の活用を願ひたいと思ひます。ご協力しだいで会員相互間の親愛の度を深めることができ、全員の技術のレベル・アップにも役立ち、あわせて会員外の方々に、この会のすがたを正しく認識してもらうことがとることも期待できるものと信じられます。

NORCは定款で定めているとおり、外洋帆走ならびにそれに関連するもろもろの事業を行なうことになっていますが、終局の目的は「海事思想の啓蒙、高揚に寄与すること」であります。

日本海事広報協会が全国176校(中学校85、高等学校91)の教師7,015名(中学2,686、高校4,329)を対象に、海事に対する関心度を専門機関に委託して調査した結果(回収率約80%)が「海上の友」(3月21日)に出ました。このアンケートのひとつ「海に対する気持ち」に対し、好き85.3%、きらい2.4%(このうち大きらい0.4%)で、好きの理由は美しさ、神秘さ、力強さが大部分であり、前回青少年を対象に同様の調査をした結果と大差ないとのことでした。

また「学校行事の実施のため船を利用したかどうか」に対しては、学校の地理的位置などによりさまざまであるが、乗船の経験をさせたくないと思うものの理由は、危険、船酔い、海は荒れるなどが多いといひます。



「海国日本」とか「われは海の子」は、わが国では老若男女だれでもが口にするこゝろなものですから、「海が好き」も、この調査をまつまでもなく大多数のこゝろとなるのは当然といえるでしょう。しかしながらこの好きの真意はながめることであつて、はだでさわたり、まじめに知ろうとすることではないようです。

そうした方々が国民の義務教育を担当しておられることを考えると、海事思想の啓蒙、高揚といったことは、とても困難な業といわねばなりません。

だいたい物事の好きに対しそのわけをただすのはやばなことです。現にエベレスト登山に努力している人たちでも、われわれと同様に、だれにしいられたりたのまれもしないのに、進んで費用と時間をさき、しかも命をかけて苦難を体験している。むしろ山が、海が好きなのです。じかに大自然のすがたにふれることは、現状のような世の中に生きている者が、人間としての自分を見出すのに適切な策と第三者はいうかも知れません。

それにしても、海好きな人のひとりでも多くに、大自然のきびしさをまず認識してもらうことがわれわれのつとめの第一歩であるのではないのでしょうか。

5/1~5 第4回八丈島レースに

—MISS SUNBIRDが完全優勝—

高松宮杯・NORC 会長杯を獲得

第4回八丈島レースは出艇申込10隻、参加艇9隻(はやまる欠)、前夜の小雨もあがったまずまずの天候に恵まれ、定刻10:00、小網代湾口より竜王をトップに全艇悠々とスタートした。本州は1022のHにおおわれているが、アムール河にある984Lの東進が気がかりである。

5月1日 城ヶ島沖迄レース艇を見送り伴走し、12:00レース本部を城ヶ島灯台科学館に開設。

5月2日 日本短波放送「5月2日 09:00 朝鮮半島の南西に1004のLがあり、毎時30~40kmで東進、今夜から明朝にかけて以西は荒模様になり、今後充分注意して下さい。」NORC麻里事務局長より、海上保安庁羽田基地YS-11よりの飛行報告あり、10:35—飛車角—II 三宅島西15M、10:40—くろしお—II 御蔵島280°15M、10:50—竜王 御蔵島250°7M、追手にて快走中、他艇は発見できず。

5月3日 低気圧の東進により南風の吹込を計算して、02:00より見張当直をたてる。

気象通報を定時聴取するが、華北の低気圧も一向に東進せず、八丈島水域は風力1~2、レースの長期化が予測される。

12:00—三宅島 坪田灯台に電話して海象、気象の現況を問い合わせる。一海はまれにみる静穏、風速1~2m/sec 視界15km—。20:30—MISS-SUNBIRDの—視認し、21—40—01、SPをあげてファストフィニッシュ。

5月4日 07:00—VAGO クロスホルズの快走振りを発見、つづいて竜王、VAGOを最後の力走で追上げてくる。九州付近まで東進した低気圧は停滞模様で、海上は静穏、レース艇の苦労が偲ばれる。

10:00—高村常務理事より電話—海保羽田基地より今朝八丈島まで飛行したが、ヨットを発見できず。17:00—初陣、波勝—IIのSPを発見。17:20—くろしお—

II、飛車角—II、雲仙、天城と一団になって各艇色様々なSPを展開して実に美しい。18—30—10 夕映の居島を天城フィニッシュ、80時間に渉る八丈島レースの熱戦は無事終了した。

各艇長よりの報告

●TILDE 5月2日 18:30—三宅島東方30M、無風のため、

シーボニアにて 帆走委員長の飯島氏



優勝 高松宮杯・NORC会長杯(SEKIYA CUP)
W.FLAG

—MISS SUNBIRD

2位 W.FLAG—竜王

3位 W.FLAG—VAGO

CLASS—II 1位 SAKE CUP—MISS SUNBIRD

CLASS—III 1位 SAKE CUP—竜王

2位 SAKE CUP—波勝—II

3位 SAKE CUP—くろしお—II

第4回八丈島レース成績表

クラス	セール No.	艇名	オーナー	スキッパー	T.C.F	石積の鼻 270°	入港時間	所要時間	修正時間	クラス 順位	総合 順位
II	380	MISS SUNBIRD	山崎達光	石合幸彦	.827	2日 16:32	3日 21.04.01	59.04.01	48.50.54	①	①
II	640	V A G O	武田陽信	大儀見 薫	.783	2日 22:01	4日 07.57.48	69.57.48	54.46.52	2	③
III	600	竜王	陳秀雄	陳秀雄	.768	2日 21:45	4日 08.37.57	70.37.57	54.14.44	①	②
III	678	波勝II	加藤鶴喜知	加納敏夫	.753	3日 04:58	4日 17.28.20	79.28.20	59.50.33	②	4
III	613	くろしおII	大浜博利	広橋修三	.751	3日 03:15	4日 18.19.50	80.19.50	60.19.41	③	5
III	610	飛車角II	名和幸夫	周東英卿	.762	3日 04:05	4日 18.21.51	80.21.51	61.14.14	6	8
III	622	雲仙	反田邦治	佐野 修	.754	3日 03:12	4日 18.23.18	80.23.18	60.36.46	5	7
III	615	天城	渡辺修治	渡辺修治	.752	3日 03:21	4日 18.30.10	80.30.17	60.32.17	4	6
III	367	T I L D E	J. JANSSEN	J. JANSSEN	.739	D.N.F	(5/2 18:30 神津島西 南西20M無風のため)				
III	614	はやまる	立松泰雄			D.N.S					

レース乗組、船艇、乗組員とも異常なし。

- 海洋速報(4/4)による黒潮を警戒したが、まず影響はなかった。

水温も17°~19°で城ヶ島沖と大差なく、御蔵~八丈の間に西流を認めた。

- 神津、三宅、御蔵、八丈付近は黒潮よりも潮汐の影響を大きく受けた。
- 低気圧の東進が遅れて、海域により無風状態が長時間続き悩まされた。

MISS/S 大島南5M~5時間。VAGO神津島東10M~2時間、大島東5M~2時間。竜王大島東3M~5時間。くろしお、天城、雲仙は御蔵島東5M~6~7時間。

- 波勝-II 八丈島で操業中の漁船に飛魚を大量に貰い、刺身、乾物にして美味かった。

- VAGO 漏電のため電圧正常ならず、修理に努力したがバルビット、フォアステとも熱を持ち、航海灯、船灯を消灯せざるを得なかった。

- 飛車角 SPハリヤード切断、その他事故なし。

アリュージョン南方の高気圧(1036~1040)が強力なためか、Lが居坐った型になり、風向、風力とも局地的に大きく振れ、各船の持味を十分に発揮できず苦杯をなめた艇が多かった。

黒潮を気にしながらも最短距離を直進し、風向、風力を良好な状態で先取したMISS-SUNBIRDの快勝は、日頃の錬度と今日のレースに集中した努力の栄光であった。

海保、灯台科学館、その他多くの方々の好意を厚く感謝いたします。

(帆走委員長 飯島元次記)

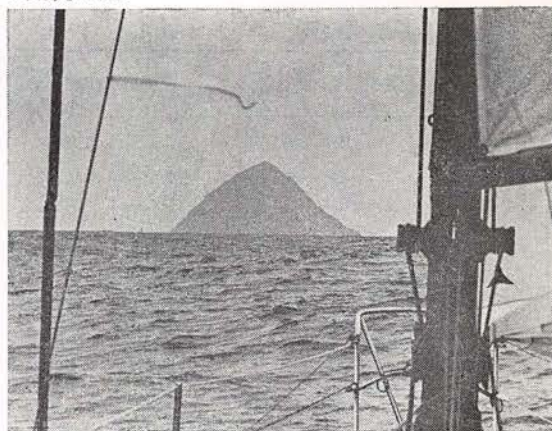


八丈島レースに参加して

竜王・陳 秀雄 記

朝8:00にシーボニアヨットクラブに着く。途中一色海岸から海の様子を見ながら船に向う。29日から本州をおおった高気圧のせいか天候は快晴に恵まれ、波も無く風も静かな絶好のヨット日和であった。ハーバーに着くと、すでに艇は艀装を済ませ、出航を待つばかりの状態で見守るクルーの顔を見て、これで行けると思うのだった。ハーバー事務所の横に設けられた帆走委員会のテーブルには女神一家のお歴下。何ヶ月ぶりであう天城の渡辺さんの顔が見られ、談笑の内にレース前の緊張を忘れさせてくれた。竜王はシドニーボート帰りのVAGOに初島に敗れ、大島回航レースにはVAGOを意識しすぎて減茶苦茶にくずれ、Aクラス3位に終わった。この借りをVAGOに返すことに初勝利を願ひこの八丈島レースに参加した。1日の10:00 竜王は一番風下からスタートして小網湾の大網の下を通り、一路南下する。11:00 3組のウォッチ体制に入る。SSWの微風だが艇速は4ノットと快調だ。針路230°、後航艇を見ると、真先にVAGOが転針、次に天城が。竜王も170°に転針する。15:00まで最高4.5ノットと南西の微風で艇速は延びなかった。16:00風が次第に強くなり一時は7ノットまで上がったスピードも19:00には風も落ち、2ノットと下った。東南東の風を受けて大島をかわし、日没時にはVAGOに初めて先行される。上手を先航して行くVAGOの船上で忙しく立働きの時々竜王を見られる大儀見君は如何にも満足気な顔を見せる。シャクだ! 23:00新島の灯を確認。2日10:00北に変る。三宅島西岸をかすかにかわす。2日06:00スピンを上げ、180°にコースを取る。新島沖から計った水温が1度きざみに上り、この時は18°。潮の流れを考へて八丈島に直行できる風だったが、10°下げたこのコースを取った。2日10:00突然風が東に振れ、ジャイブ。ところが170°の針路がやっとなこと。スピンのままで八丈島に直行するのが不可能になった。ここが勝敗の別れ目で、この位置で一番風上において、八丈島直行体制を取ったミスサンバードに東に振れた風が幸いして、スピンのまま八丈島をかわさせ、下手にいた竜王、VAGOはやむなくスピンをおろすはめになり、女神はミスサンバードに微笑みえんだのである。そんなこととはつゆ知らず、イナンバをかわした竜王は下手からクローズで上ってくる艇を確認、1日の日没から初めて見るヨットで、にわかに戦意を高

八丈島をのぞむ



めるのだった。同時に八丈島を竜王の遠メガネ志賀君が確認。スピンを降し、Heavy Genoaを上げ、八丈島に直行する。2日08:00八丈島南側を通過、最初本島と小島の水道を通る予定だったが、クルーから異論が出てめんどくさいので小島の西側を通ることにした。これが八丈廻航に4時間もかかった原因になった。2日22:05八丈島を廻航針路0°東北東の風7メートル後6ノットで、このままで行けば20時間後3日の晩には城ヶ島を見る予定だったが、予定は予定で、3日03:00風が振れ、針路を340°に保つのがやっと。コースはイナンバに向ってしまった。3日07:00VAGOを上手に見て、御蔵島に針路を取る。ここでタック戦術で、VAGOの上手にでることに成功する。3日09:00、10°で三宅島に向う。三宅のブランケットに入り、345°に転針、三木岳をかすめ三宅島に向けて、そのまま流されて三宅を通過。3日04:00風の振れを待って35°にコースを取る。後20°で新島沖を抜け島に向ける。3日22:00西南西の風で針路10°、3日24:00大島東岸を走る。4時間のなきの後、風が西から北風になり、次第に風速を増し、330.6°の針路でタックをくり返し、4日08:37、城ヶ島にいたる。ふりかえると、行きの大島から三宅島にいたる夜間の帆走で、文明の利器を駆使したミスサンバードとVAGO、利器のない竜王に差が出て、黒潮情報のまま八丈島に直行したミスサンバードの位置に有利に風が振れ、黒潮を考慮したVAGOの南下した分に風の振れが不利を招き、竜王は大島、三宅島間の夜間の帆走で差をつけられ、三宅、八丈、直行するが、時すでにおそく風が東に廻り、スピンを上げきれなかったのが決定的だった。

〈関東支部〉

① 4/4~5 第1回初島レース

—VAGOが完全優勝—

参加艇27、乗員総数144が本年度最初の本レースに4月4日夕刻勇躍して荒天の海に飛出していった。天候は折悪しく相模湾海面を低気圧が通過中で終始12~15mの北乃至北東風が吹き込み、雲足は早く星の無い視界不良の上に初島周辺では相当の悪浪に各艇翻弄された。然し往航の順風はキツイ乍らスピンの展張の好条件を与え、大小艇共に大差のない快速を得ることとなり、初島到達はトップ、ラスト艇間で約1時間の僅差でしかなかった。レース成績を大きく左右したのは初島回航より後半にかけてであった。島の廻り込みテクニック、続く悪浪の乗切り、帰航コースの

引き方等々。

ともあれ5日01:30トップ艇小網代湾口に発光信号を発すると見るやコミテがこれを確認する暇も与えず01h—32m—27s猛スピードで「VAGO」フィニッシュライン突破、40分程間を置いて「竜王」、続いて数分間隔で「智美」、「RED SHARK」、「飛車角II」、「くろしおII」、「はやまる」、「雲仙」、「足柄」と大型艇が飛込んで来る。「はやまる」、「雲仙」等は数秒差、確認、計時とコミテは全く息つく間もない有様。ポイントレース並のテンポだ。斯くする中に小型艇中の駿足「AOLELE II」、「KELONIA II」、「SAMOA II」からの一団となつての発光信号受信と見る間に前2艇の速度が突然にぶる。網代崎岩礁に乗り上げたのだ。前者は辛うじて自立脱出したが後者は遂に離脱不能、この間隙をぬって「SAMOA II」小型艇トップの栄冠を手にする。正に「KELONIA」には千才に悔を残す結果であろう。コミテは同艇の座礁を認めると直ちにテングー出動、状況確認に向ったが同艇より自力脱出を試みとの応答に一度引返したが数分後緊急発光信号を受け再び大型モーターボートで出動曳航離脱を試みるも果せず。増錨2ツを打ち艇の更に悪条件となるのを防止すると共に乗員3名を移乗収容したが艇長他1名は残留処置を試みる旨の申出に依り再び帰、(此の救難作業はフィニッシュ艇続々入港中のコース上で行われたために他艇に多少危険、迷惑を及ぼしたと考えますが非常事態の故ご了承下さい)更に夜明を待って再々出動漸く曳航離脱ができた。損傷はラダー欠損、艇体は僅かにプラスチック表面に切欠き傷を残した程度に止り悪浪中数時間の暗岩上のトラブルにしては軽微に済んだことは不幸中の幸であった。

(帆走委員長 落合公平記)

② 4/25~26

第4回大島廻航レース

—VAGOが完全優勝—

4月25日(土)10:00 小網代湾を先ずクラスⅣVの8隻が、大島の西岸を目指してとび出していった。風はNE10~15KT、薄曇り。昨年のこの大島廻航レースとよく似た天候だ。

今度のレースは、レース日程の多いこと、天候の悪いこと等の理由からか、当初の申込艇数が21隻、当日の不参が4隻、結局、クラスⅡ2隻、クラスⅢ7隻、クラスⅣ4隻、クラスⅤ4隻の17隻になった。

前日の金曜日24日には、九州に低気圧があり、1002mbと大して強くないが、前線に沿って東進中。処により強い雨が予想されるという予報であった。この低気圧は足が遅く、金曜の夜も気圧計は殆ど変わらず、予報と異なる天候が考えられた。

夕方、18:00 スタート要員集合し、スタート用の備品をチェックする。今回は何とか、大崎綱にライトをつけたいと考える。

25日07:30から受付開始、08:15迄に終了、大体の気象状況を説明し、南下するにつれて風波強まり、雨と共に視界も悪くなることを知らせる。

クラスⅣⅤに続き、クラスⅡⅢの9隻が少し強くなってきたNEの風の中でスタートを切る。この処調子をあげてきた「竜王」が相変わらずきれいにスタート、「クロシオ」がすぐ後に続く。

「VAGO」はやや遅れたスタートだったが、スピンの展開するや直ちに全帆走に移り他艇と離れ、直進コースで南下していった。

オーシャンレースとなると、諸条件が備わらなければならないためか、第1回のN.O.R.C館山レースが17隻。15年経た現在、今日の出場艇が17隻とは何か日本のクルーザー界の実状を物語っている様な気がしないでもない。いくら船が量産されても、乗員の方

第1回初島レース成績表

クラス別	セーラーNo.	艇名	T.C.F.	オーナー又は艇長	初島0' 回航時間 4/4	所要時間	修正時間	クラス別 順位	ⅡⅢ~ⅣⅤ 総合順位
Ⅱ	640	VAGO	.783	大槻 薫	21:34	7.02.27	5.30.47	①	①
Ⅱ	606	智 美	.778	津野 守邦	21:45	7.53.08	6.08.05	2	4
Ⅱ	338	潮 風 Ⅲ	.781	竹下 政彦	21:22	9.51.17	7.41.48	3	12
Ⅲ	600	竜 王	.768	陳 秀雄	22:49	7.49.04	6.00.15	①	②
Ⅲ	616	RED SHARK	.742	関根 久	22:02	8.15.37	6.07.45	②	③
Ⅲ	613	くろしお Ⅱ	.751	大浜 博智	22:01	8.34.12	6.26.10	③	5
Ⅲ	610	飛車角 Ⅱ	.762	名和 幸夫	22:02	8.27.36	6.26.47	4	6
Ⅲ	614	はやまる	.746	立松 泰雄	22:05	8.45.10	6.31.46	5	7
Ⅲ	622	雲 仙	.754	反田 邦治	22:08	8.45.41	6.36.22	6	8
Ⅲ	617	足 柄	.741	福永 昭	22:00	8.55.35	6.36.52	7	9
Ⅲ	367	THLDE	.739	G.JANSEN	22:30	10.03.57	7.26.19	8	10
Ⅲ	396	さちかぜ	.737	山岸 達	22:32	10.07.05	7.27.25	9	11
Ⅳ	677	AOLELE Ⅳ	.725	向井七男也	22:05	9.29.00	6.52.32	①	②
Ⅳ	629	竜 飛	.707	岩瀬 弘	21:55	9.43.39	6.52.38	②	③
Ⅳ	635	つばき	.736	釜口 昌久	21:42	9.21.45	6.53.27	③	4
Ⅳ	381	八 丈	.709	近藤 祐之	21:34	10.30.48	7.27.14	4	7
Ⅳ	651	CIMA	.708	長谷川 善郎	22:00	10.37.17	7.31.12	5	8
Ⅳ	625	AIOLA Ⅱ	.735	延 滋男	21:50	10.30.00	7.47.28	6	9
Ⅳ	630	JOUR	.708	鈴木 弥彦	22:00	11.12.10	7.58.54	7	10
Ⅳ	361	CABO FRIO	.712	春日 寛司	22:41	13.14.57	9.26.00	8	13
Ⅴ	669	SAMOA Ⅱ	.705	大石 巖	21:50	9.27.17	6.39.56	①	①
Ⅴ	658	MISA	.684	小泉 節哉	22:00	10.10.22	6.57.29	②	5
Ⅴ	644	そよかぜ	.685	倉本 昌治	22:08	10.37.00	7.16.21	③	6
Ⅴ	654	BARBA ROSSA	.700	伊藤 哲郎	22:30	11.05.23	8.09.03	4	11
Ⅴ	602	桜 工	.701	小林 和茂	22:30	12.52.59	9.01.52	5	12
Ⅴ	315	OLYMPUS Ⅲ	.700	石渡 四郎	22:27	17.58.12	12.34.44	6	14
Ⅴ	642	KELONIA Ⅱ	.701	大谷 正彦	21:42	D.N.F.			

備考 ① BARBA ROSSAは、リコール不能行のため5%ペナルティー加算

② KELONIA Ⅱは、Finish直前座礁、ラダー破損

③ 八丈、桜工、JOURはStart直前接触せざるも大損なし

はそれ程に多くはならない。この状態がもう暫く続いてそのうちに又大きく増加するのかもしれない。

この日も気圧は大して降下せず、曇り勝の天気が続く。時々風が強まる。この分では大島海域は相当に悪いと思われる。

午後雨が降り始めた中を、“しょうがく坊”が帰って来る。スピンハリヤードの切換でリタイヤして来たとの事。まだレースに馴れない艇では、一個所のトラブルは、他の部品の不完全も予想されるから、こんな時は早く見きりをつける方が安全である。こちらからの申入れを聞いてくれた艇長の判断に感謝する。

16:00 スピンをマストヘッドから流して“BARBA ROSSA”が帰港する。大島近くまで行って、スピンをフォースターにからませてリタイヤ。波の中、ローリングする船で、マストに登ることも出来ればそれに越したことはないが、強制も出来ない。機走で4時間かかって帰ったねばりを買いたい。これでこの次はスピネットの必要を身を以て感じてくれるに違いない。こうして大きな事故にならずに皆が成長して行ってほしいものである。

保安庁の巡視艇がスタート時に沖の方に見えたが、もし相模湾海域に居られるならN.O.R.C.の選ばれたクルー達の走りっぷりを見ていただきたいと思う。

18:00 日没前に、フィニッシュラインの設置を終り、ウォッチに入る。コミッティボートのRED、SHARK、控えのSHARK Xに8名の二直、クラブには“ルナロッサ”とハーバー事務所へ8名の二通、結局10名の正会員と6名の準会員で編成してあるので充分余裕がある。

23:00 湾口南を照射するサーチライトが見える。レース艇らしい。すぐに、舷燈が見え、モールの発信が始まる。6-4-0、やはり“VAGO”がトップで帰って来た。

大島迄の波浪中のランニングで、スピンを2枚も破り乍ら、強風中のクローズホールドの好性能を発揮して、他艇を振り切って帰って来た。ハーバーから、乗員の報告が森村委員の中継で入ってくる。沖にいて、ハーバーのムードがわかって大変に興味がある。

大崎網の内側につけたライトが、大変に具合よかったと聞いてほっとする。これで、この前の初島レースの様な事故は起らないと確信する。

1時間程して又、舷燈が見える。606の“智美”だ。クラスIIの面目にかけて快走して来たらしい。続いて、600か、610かはっきりわからないモールスで、一隻入って来る。船はニスらしいが、相憎と“竜王”も“飛車角”もニスなので区別がつきにくい。セールブランが“飛車角”らしいのでスピーカーで問合せたが、その通りだった。本来の“飛車角”らしい走りだった。

その後、“竜飛”“つばき”“足柄”と続き、暫くおいて他のレース艇が帰って来た。“はやまる”もメンスルを破いて機走で帰って来る。

セールが皆小さく、バテンの折れたものもあり、相当の苦戦が想像される。

08:08 の“AOLELE”を最後に後続なし。“AOLELE”もポイントレース、初島レースの走りに自信を得てはりきってスタートして行ったが、事、志と異り、“オリンパス”、“つばき”に大差をつけられ、残念な顔が見える。

最後の“SEAWITCH”の消息がわからず、大分心配する。全然レースに出ていない船が突然参加することも自由だが、外人クルーの場合は船だけでなく乗員についても未知なので、余計に心配だった。

16:00 稲富さんから横須賀へ入港した旨連絡あり。これで全艇確認。保安部へ連絡して帆走委員会の務めを終った。

今後はフィニッシュラインをずっと中へ入れて、シーボニヤのクラブハウスからの見通しを使った方がよいかもしれない。

なお、大崎網のライトについては、シーボニヤヨットクラブを通じて漁業組合に申入れをしたのでうまく行けばこの次は、点燈されるかもしれない。

一つのレースを足がかりに、レース艇も、委員会も少しずつ前進して行きたいと思ひ色々書いて見た。乱文お許し下さい。

(帆走委員長 関根久 記)

大島レーススナップ



第4回大島回航レース成績表

クラス	セール番号	艇名	T.C.F	オーナー又はスキッパー	竜王崎回航時刻	所要時間	修正時間	イラス順位	II-III-VV総合
II	640	VAGO	.783	武田 陽信	16:06	12.43.50	9.58.04	①	①
II	606	智 美	.778	津野 邦	16:15	14.06.23	10.58.29	2	③
III	610	飛車角 II	.762	名和 幸夫	16:55	14.19.40	10.55.03	①	②
III	613	くろしお II	.762	大洪 博利	17:25	15.04.40	11.19.24	②	4
III	600	竜 王	.751	陳 秀雄	16:15	14.55.34	11.27.47	③	5
III	617	足 柄	.768	福永 昭	17:10	16.43.41	12.23.43	4	6
III	367	TILDE	.741	J.JANSSEN	17:20	20.22.21	15.03.19	5	7
III	614	はやまる	.739	立松 泰雄			D. N. F		
III	341	SEA WITCH	.746	J.L.CLEVELAND			D. N. F		
II	380	MISS SUNBIRD	.838	山崎 達光			D. N. S		
II	358	潮 風 II	.720	竹下 政彦			D. N. S		
IV	629	竜 飛	.781	宮瀬 弘一	16:25	16.00.31	11.19.05	①	①
IV	635	つばき	.707	釜口 昌久	16:30	16.14.49	11.57.27	②	②
IV	677	AOLELE IV	.736	向井七男也	16:40	22.08.11	16.04.15	3	5
IV	650	VEGA	.726	宮沢 英夫			D. N. F		
V	315	OLYMPUS III	.706	落合 公平	17:45	19.58.18	13.58.48	①	③
V	669	SAMOA II	.700	大石 巖	17:00	20.42.38	14.36.03	②	4
V	681	しょうがく坊	.705	神保 和也			D. N. F		
V	654	BARBA ROSSA	.701	伊藤 哲郎			D. N. F		
V	618	だばはぜ II	.700				D. N. S		
V	644	そよ かせ	.685	倉本 昌治			不明 (D. N. S)		

4月25日スタート時NE6~10KT、大島海域NE25~30KT

リタイヤ原因 しょうがく坊 スピンハリセード切断 11:30 14:00 帰港

BARBA ROSSA スピントラブル 12:30 16:30 帰港

はやまる メンスル切断 エンジン不調

SEA WITCH 乗員の問題。艇異常なし 26日16:00 横須賀入港

他のトラブル VAGO スピンネッカー2枚破損

帆走委員長 関根久 委員 森村謙次、野宮光寿、松尾昭昭、三林耕次

③ 相模湾ポイントレース・スプリングシリーズ

1位はクラスⅡ・智美、クラスⅢ・竜王、クラスⅣ・アオレレ、クラスⅤ・サモア

①「2月8日 第1レース」

コース②、小網代→江の島→葉山→小網代。タイム・リミット16時。
出場艇33隻、内伴走3隻と2月のレースとしては多数の参加を見ました。

各クラス1位の艇は、クラスⅡ「智美」、同Ⅲ「竜王」、同Ⅳ「VEGAⅢ」、同Ⅴ「SAMOAⅡ」。

当日は996mbの低気圧が日本海を東進中で、強風が予想されたが、副低気圧との谷間に入ったせいか、フィニッシュ間きわまで、たいして吹かず、視界不良、雨、風向不定と悪条件がそろい、面白いともしんどいともいえるレースだった。

スタートは南西6m/secの風を受け、リーチングで、全艇ノートラブルでスタートしたが岸よりのプランケットに入り遅れる艇が

数隻見られた。スタートでは充分な艇速をつけ、ライン上に群がる他艇の中をさっと抜け出した「そよかぜ」の好スタートが際立っていた。

全艇江の島に向けほぼ一列になり、亀城礁にさしかかった9時45分頃から風が落ち、視界が悪くなり、11時頃にはとうとう降り出し、可成の大降りとなった。

コミッティーは「この分なら、ほとんどの艇がタイム・リミットでめんどうなTCFの計算をしなくていいや。」などと不心得な事をいいながら昼寝を始める始末。

レース艇は江の島マーク付近で風にあい、再スタートといった状態で、葉山マーク回航では視界不良の為、相当数の艇がオーバー・ランしたようだ。長者が崎付近で又風、後、亀城までは、ほぼN3~4m/secの風であったが、亀城で再度風といった有様で、この辺でリタイヤーする艇が出た。

所要時間4時間58分15秒で、竜王がガスの中から現れ、リーチング・ジブを上げ、静々とファースト・ホーム。二番手が仲々現れなかったが、南々西の風が徐々に強まり、瞬間15m/secに達し、SAMOAⅡ、RED SHARK、足柄、雲仙、智美となだれこみ、45分間に24隻がフィニッシュしてしまった。亀城の風でリタイアし、先に機走に移った艇があとから入ってくるといった有様で、リタイアした艇はもうすこしがまんすればと残念がっていたようだ。

この間コミッティー・ボートはオーニングをプロローをはらませ走錯、数分エンジンをしながら、フィニッシュを記録するというハプニングがあり、一部の艇にご迷惑をかけたことをおわびします。

②「3月15日 第2レース」

コース①、小網代→葉山→江の島→小網代。

出場艇38隻。

葉山マークが漁船にアンカー・ローブを切られ、流失した為ノールレース。

「サン・バード」が「KAY SEVEN」に抜かれそうになったので、マークを盗んで逃げちゃった。」といった風評がありますが、これは全くのデマで、サンバードは、流れたマークを拾ってくれたもので、一寸した善行賞ものです。

③「4月19日 第3レース」

コース③、小網代→葉山→小網代。タイム・リミット16時。

出場艇29隻、内伴走2隻。各クラス1位の艇は、クラスⅡ「VAGO」、同Ⅲ「竜王」、同Ⅳ「AOLELEⅣ」、同Ⅴ「SAMOAⅡ」。

北東5~8m/secの順風の中、快適なレースであった。各艇、1タックで葉山マークを回航、帰路はスピン戦となり、小網代湾口に殺到した。

所要時間2時間29分35秒で伴走の「KAY SEVEN」がファースト・ホーム、続いて「VAGO」「竜王」の2艇が、フィニッシュ・ラインを前にデッド・ヒートを演じ、「VAGO」が僅か1秒差で先にフィニッシュした。引き続き「サンバード」「RED SHARK」「智美」「雲仙」「潮風」「くろしおⅡ」「AOLELEⅣ」「AIOLAⅡ」「はやまる」が3時間以内にフィニッシュし、最終艇が12時47分というスピーディなレースであった。

レース終了後、スプリング・シリーズの表彰式及びパーティが、シーホニアヨット・クラブにて行われ、クラスⅡ1位「智美」、同2位「ミス・サンバード」、クラスⅢ1位「竜王」、同2位「RED SHARK」、同3位「雲仙」、同4位「足柄」、クラスⅣ1位「AOLELEⅣ」、同2位「竜飛」、同3位「VEGAⅢ」、クラスⅤ1位「SAMOAⅡ」、同2位「そよかぜ」、同3位「HIRO」に各々のカップが授与された。

4/19 相模湾ポイントレース成績表

クラス	セール No.	艇名	RIG	T.C.F.	所要時間	修正時間	艇長	クラス別		
								順位	得点	Ⅱ~Ⅲ混 Ⅳ~Ⅴ合
Ⅱ	640	VAGO	S	.783	2.30.16	1.50.39	大儀見 薫	1	23	2
Ⅱ	380	MISS SUNBIRD	S	.820	2.34.31	2.04.42	山崎 達光	2	19	4
Ⅱ	606	智 美	S	.778	2.46.23	2.06.26	津野 守邦	3	16	6
Ⅱ	358	潮 風	S	.781	2.48.41	2.18.44	竹下 政彦	4	13	8
Ⅲ	600	竜 王	S	.768	2.30.17	1.50.25	陳 秀雄	1	23	1
Ⅲ	616	RED SHARK	S	.742	2.44.30	2.04.03	関根 久	2	19	3
Ⅲ	622	雲 仙	S	.754	2.48.05	2.08.44	今関 秀夫	3	16	5
Ⅲ	613	くろしおⅡ	S	.751	2.54.45	2.14.14	広橋 修三	4	13	7
Ⅲ	614	はやまる	S	.746	2.56.39	2.16.46	立松 泰雄	5	11	9
Ⅲ	622	足 柄	S	.741	3.01.23	2.11.24	国松	6	9	10
Ⅲ	396	さちかぜ	S	.737	3.05.55	2.15.01	北川 清	7	7	11
Ⅲ	367	TILDE	S	.739	3.12.41	2.22.23	J.Jansen	8	6	12
Ⅲ	197	あ さ ひ	S	.747	3.16.11	2.26.32	小杉 行雄	9	5	13
Ⅲ	636	CARINAⅡ	S	.757	3.15.13	2.25.46	中村 清	10	4	14
Ⅳ	677	AOLELEⅣ	S	.725	2.55.31	2.05.14	向井七男也	1	23	1
Ⅳ	629	竜 飛	S	.707	3.07.50	2.17.47	岩瀬 弘一	3	16	4
Ⅳ	625	AIOLAⅡ	S	.735	2.56.36	2.06.48	延 滋男	2	19	2
Ⅳ	651	CIMA	S	.708	3.11.24	2.11.30	長谷川幸一	4	13	5
Ⅳ	340	SHARKⅣ	S	.708	3.16.15	2.16.56	井上 政雄	5	11	7
Ⅳ	681	しょうが坊	S	.709	3.27.12	2.27.54	林 繁	6	9	9
Ⅴ	669	SAMOAⅡ	S	.705	3.05.37	2.15.51	高橋 太郎	1	23	3
Ⅴ	608	明 日 香	S	.702	3.16.27	2.16.54	加藤 栄美	2	19	6
Ⅴ	644	SOYOKAZE	S	.685	3.23.37	2.13.28	倉本 毅	3	16	8
Ⅴ	654	BARBA ROSSA	S	.700	3.38.16	2.38.47	山本 弘	4	13	10
Ⅴ	619	HIRO	S	.703	3.38.08	2.38.20	山本 弘	5	11	11
Ⅴ	315	OLYMPUSⅢ	S	.700	3.42.42	2.32.53	落合 公平	6	9	12
Ⅴ	602	桜 工	S	.701	3.47.09	2.39.13	栗原 章	7	7	13
伴走	6677	KAYSEVEN	S		2.29.35		福田 義一			
伴走	1029	サモア・ジュニア	S		3.38.19		落合 輝興			

◎コース 小網代→葉山→小網代

◎タイムリミット 15.00

◎出場艇 29隻 (内伴走2隻)

◎DNS ナシ

DNF ナシ

II混混合では、1位竜王、2位「RED SHARK」3位「雲仙」とクラスIIIが占め、とりわけ「竜王」の2レース共1位、「RED SHARK」の2レース共2位は瞳目に値する。IV混合では、1位「SAMOA II」2位「AOLELE」3位「そよかぜ」とプラスチック艇が上位を占めた。なお、これらの表彰は夏祭の際行います。

また、出艇申告書の所定記入事項に空欄・誤記のあるものが少くありません。今後充分ご注意下さい。

ポイントレース運営委員長 近藤禎之

コミッティ 第1レース 近藤 (八丈)

第2レース 鳥飼 (SUNGO)

第3レース 富永 (SALMON II)

〈東海支部〉

① 4/5 伊勢湾レース —“さなる”が1位に—

ようやく春の訪れた鬼崎港外、当初7隻の申込みが5隻になって06:00 スタート、大学の若手OBチームの「零」以外はかなりのんびりムードのスタートとなった。まず伊勢湾澄標まで真昇りNW4~5mの風、07:00頃「さなる」をトップに4隻相次いで廻航。ここで「タレットIII」のみ大きく遅れ、やがてWに変わった第2レグの昇りですます遅れた末残念にも棄権。

先行艇群は楠崎沖で風の变りを迎え、10:00頃「さなる」「バックニア」「零」の順に白子沖の特設マークを廻航。各艇スピンを張るも、すぐ沖からEの風が追って再び昇りのレースとなり、「バックニア」「エビキュリアン」が各々直前艇を追い込んだ末、「エビキュリアン」はフィニッシュを誤って下記成績となる。

伊勢湾レース成績表

No.	艇名	T.C.F	実時間	CT	順位	艇長	オーナー
225	エビキュリアン	0.698	(8.36)	D.N.F	1	早川義辰	大岩章男
237	バックニア	0.727	7.38	5.34	2	日比正光	日比正光
245	零	(0.698)	8.49	6.10	3	古橋武生	古橋武生
248	さなる	(0.687)	7.40	5.16	1	大矢 隆	中村享司
1015	タレット III	(0.672)	(11.20)	Ret.	1	服部一男	服部一男

注 T.C.F欄内の()は暫定、実時間欄()は非公式を示す。

今回のレースで、提出された航跡図に豊富な情報が入っていた艇ほど順位も良い結果が出たのは興味深い。(帆走委員長 大橋郁夫記)

② 5/3 熊野レース —“しゃち”が1位に—

東海支部最大のレース、熊野レースは5月3日鬼崎→浜島間52海里で行なわれた。懸念された低気圧の風雨はなかったが風は全てS寄りであり、熊野レースにはめずらしく、のほりばかりのレースとなった。

参加はいずれも鬼崎フリート所属の3艇ということでやや淋しいが「しゃち」、「ゼロ」は大学OBのベテランのいわば兄弟分艇、一方「サナル」は2月新造以来2回の参加レース不敗の21呎である。ライトでセルのトリムを見ながらスタートのトライをくり返す各艇のあいだには、目に見えないファイトがぶつかり合っている感じである。

00:00、鬼崎itとコミッティボートのライン、風ESE2~3m/sec、風上から「ゼロ」、風下から「しゃち」、サナルはやや遅れてスタート。除々にサナルが真ん中から抜け出して行った。

各艇180°~186°で南下、野間沖で風Sにふれ、落ちて来たため、「サナル」02:00、「ゼロ」02:30頃200°~250°にて2m、再び180°にもどす。

「しゃち」は03:00タックして内海沖へ出た後186°とする。このあたりがレースの分かれ目となった。「しゃち」は小築海島東を8:00頃通過。夜半をリードしたサナルは風につつまみ苦戦。桃取N3m付近でやっと風をつかまえて小築海島を右に見て廻航する。時間9:30。明け方風上を行く「サナル」を見送って答志島内側を

相模湾ポイントレース・スプリング・シリーズ成績表

ク ラ ス	セー ル No.	艇 名	RIG	F.C.F.	2/8ポイント レース		3/15ポイント レース		4/19ポイント レース		スプリング シリーズ		合計				
					クラス 別	Ⅱ-Ⅲ Ⅳ-Ⅴ 得点 順位	Ⅱ-Ⅲ Ⅳ-Ⅴ 得点 順位	Ⅱ-Ⅲ Ⅳ-Ⅴ 得点 順位	Ⅱ-Ⅲ Ⅳ-Ⅴ 得点 順位	Ⅱ-Ⅲ Ⅳ-Ⅴ 得点 順位							
					順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点					
Ⅱ	606	智 美	S	.778	1	23	7	7	◎	3	16	6	9	①	39	6	16
Ⅱ	380	ミス サンバード	S	.820	3	16	13	2	◎	2	19	4	13	②	35	8	15
Ⅱ	358	潮 風 Ⅲ	S	.781	2	19	12	2	◎	4	13	8	6	3	32	12	8
Ⅱ	640	VAGO	S	.783					◎	1	23	2	19	4	23	5	19
Ⅱ	355	ロータス	Y	.794					◎印は エントリー					?			
Ⅲ	600	竜 王	S	.768	1	23	1	23	◎	1	23	1	23	①	46	①	46
Ⅲ	616	RED SHARK	S	.746	2	19	2	19	◎	2	19	3	16	②	38	②	35
Ⅲ	622	雲 仙	S	.757	5	11	5	11	◎	3	16	5	11	③	27	③	22
Ⅲ	617	足 柄	S	.744	3	16	3	16	◎	6	9	10	4	④	25	4	20
Ⅲ	396	さ ち か ぜ	S	.737	4	13	4	13	◎	7	7	11	3	5	20	6	16
Ⅲ	613	くろしお Ⅱ	S	.751	7	7	8	6	◎	4	13	7	7	5	20	9	13
Ⅲ	197	あ さ ひ	S	.747	6	9	6	9	◎	9	5	13	2	7	14	11	11
Ⅲ	367	TILDE	S	.739	9	5	10	4	◎	8	6	12	2	8	11	13	6
Ⅲ	614	は や ま る	S	.746					◎	5	11	9	5	8	11	14	5
Ⅲ	610	飛 車 角 Ⅱ	S	.762	8	6	9	5						10	6	14	5
Ⅲ	157	ブルーリボン	Y	.764	10	4	11	3						11	4	16	3
Ⅲ	636	カリナ Ⅱ	S	.757					◎	10	4	14	2	11	4	17	2
Ⅲ	388	稲 竜	S	.772	DNF	1			◎					13	1	18	1
Ⅲ	305	VEGA Ⅱ	S	.743					◎								
Ⅲ	625	AIOLA	S	.743					◎								
Ⅳ	677	AOLELE Ⅳ	S	.725	4	13	10	4	◎	1	23	1	23	①	36	②	27
Ⅳ	629	竜 飛	S	.707	2	19	6	9	◎	3	16	4	13	②	35	4	22
Ⅳ	650	VEGA Ⅲ	S	.706	1	23	3	16						③	23	6	16
Ⅳ	625	AIOLA	S	.735						2	19	2	19	4	19	5	19
Ⅳ	635	つ ば き	S	.736	3	16	9	5	◎印は エントリー					5	16	14	5
Ⅳ	651	CIMA	S	.708					◎	4	13	5	11	6	13	8	11
Ⅳ	340	SHARK X	S	.708						5	11	7	7	7	11	13	7
Ⅳ	373	エメラダ	S	.713	5	11	11	3						7	11	17	3
Ⅳ	681	しょうがく坊	S	.709					◎	6	9	9	5	9	9	14	5
Ⅴ	669	SAMOA Ⅱ	S	.705	1	23	1	23	◎	1	23	3	16	①	46	①	39
Ⅴ	644	そよかぜ	S	.685	2	19	2	19	◎	3	16	8	6	②	35	③	25
Ⅴ	619	HIRO	S	.703	6	9	8	6	◎	5	11	11	3	③	20	10	9
Ⅴ	608	明 日 香	S	.702					◎	2	19	6	9	4	19	10	9
Ⅴ	602	桜 工	S	.701	5	11	7	7	◎	7	7	13	2	5	18	10	9
Ⅴ	642	クロニア Ⅱ	S	.701	3	16	4	13	◎					6	16	7	13
Ⅴ	618	ダボハゼ Ⅱ	S	.701	4	13	5	11	◎					7	13	8	11
Ⅴ	654	BARBA RCSSA	S	.700						4	13	10	4	7	13	16	4
Ⅴ	315	OLYMPUS Ⅲ	S	.700					◎	6	9	12	2	9	9	18	2
Ⅴ	658	MISA	S	.685					◎								

ねらった「ゼロ」は再びひどい風に悩まされることになった。

大王崎itを270°に見るチェックポイントを「しゃち」12:00、「サナル」14:58で通過。各艇タックをくり返す。風SSEかららSSWと沖と陸とで相当にふれているようである。

麦崎、越賀の定地綱は「しゃち」内一内。「サナル」内一外とかわして15:51「しゃち」の白いハルがフィニッシュライン(大矢取itとブイの見通し、ブイAC)をくぐった。このころから小雨が降り出し、他2艇の経過が心配されたが18:23、元気に「サナル」フィニッシュ。

熊野レース成績表

No.	艇名	T.C.F	FT	CT	順位	艇長
233	しゃち	0.701	15.51	11.07	1	柴田俊彦
245	零	0.698	D.N.F			古橋武夫
248	SANARU	0.688	18.23	12.39	2	中村享司

そのころ「ゼロ」が安乗へ入港した旨連絡が入った。

(レース担当 QUERIDA 竹内聡一 記)



関東支部・シーボニアフリート シーボニアの旗をあげて走ろう

3年前には、浅瀬だった小網代湾の南側がいつのまにか埋立てられて、その一角にできたのがシーボニアヨットクラブです。これはクラブといっても、我々のお金で作ったものではなく、パンパシフィックという会社が作ったヨットハーバーで、そのハーバーに集ったグループでシーボニアヨットクラブを作っています。その中に又、クルーザーのグループが(N.O.R.C所属)のN.O.R.Cのシーボニアフリートに所属しています。

今迄の処、フリートとしてはしっかりした活動はしていませんが、シーボニアの場所と施設が大変便利なので、レースの基地や計測の場所に利用されています。

今までこのあたりは、油壺と小網代の二つのフリートが主力だったのですが、その中へ仲間入りさせていただいて、少しでもクラブのお役に立つ様に心がけています。

といっても、他にシーボニアヨットクラブのメンバー(N.O.R.C以外の方)もおられることで、中々思う様には活動できません。

今年は、5月にフリートのミーティングを行って、今後の方針などを考えていきたいと思うのですが、スケジュールが一杯で中々その日もとれないといった処です。

レースに出ているのは、MISS SUNBIRD (山崎フリートキャプテン) VAGO (大儀見専務理事) 竜王 (陳さんは小網代フリートだといっておられますが、最近はこちらにとめておられます) 新艇のK.7 (45'の小田さん設計になる船、栗林さん) ロシナンテIII (47'のスパークマンの船、大口さん) RED SHARK (私の船) SIMA (長谷川さんのCAL 2-24) CARINA (中村さんの31'艇) 等が主力です。

他にレースでなければよく走りまわっている船もあります。田辺さんの蒼竜、MIGRATOR、CHITAなどが非常に船の特

京都支部競技日程

月日	レース名	コース・距離	帆走委員	摘 要
6月6日(出)	多景島	大橋-多景島 沖ノ島水道-大橋 34哩	オクタビア (松本)	スタート 6日(出) 20:00 タイムリミット 7日(出) 14:00 (時計通り)
7月4日(出)	竹生島	大橋-竹生島 大橋 42哩	しぶき (中谷)	スタート 4日(出) 18:00 タイムリミット 5日(出) 18:00
8月23日(出)	奥比ワコランデブー	柳ヶ崎ヨットハーバー-奥比ワコ塩津港 32哩	マリリア (北岡)	奥比ワコ塩津港へ 18:00集合、夕食会 帰航24日(出) 10:00
9月12日(出)	沖ノ島	KYC-沖ノ島 -KYC 31哩	フロッグIII (真田)	スタート 12日(出) 20:00 タイムリミット 13日(出) 15:00 (時計通り)
10月10日(出)	竹生島	KYC-竹生島 -沖ノ島-KYC 56哩	ビクトリイ (松居)	スタート 10日(出) 13:00 タイムリミット 11日(出) 17:00 (時計通り)

○出場申込は各レースの2週間前にまで。各レース出艇料¥2,000

○帆走委員は選ばれた艇から各1名出して下さい。

○帆走指示書はレースの1週間前に渡します。

○8/23の奥比ワコ塩津港ランデブーは会員艇以外にも呼びかけ盛大な夕食パーティにしたいと計画しています。

色を出して楽しんでおられます。

レースをしている時はN.O.R.Cのメンバーとして、港へ帰ったらシーボニアのメンバーとして二つの活動面をもっているの、時々問題も起ります。例えばクラブバージャーなど、今後レース以外はシーボニアの旗をあげて走りたいと思います。決してN.O.R.Cと仲が悪いわけではないので誤解なさらない様にお願いします。他のフリートの方から見て何かお気付の点がありましたらお知らせ下さい。

(世話人・バイスキャプテン 関根 久 記)

西内海支部・別府フリート 別府レースの回顧

本年度別府レースは、5月4日行う予定でしたが広島県では濃霧注意報、大分・山口県では強風波浪注意報が出たので中止になりました。これでは“支部だより”にならないので別府レースそのもののスタートおよび経過を報告させて戴きます。43年、別府フリートができた記念事業として、このレースが計画されたわけですが、これにはそれ迄屢々別府ハーバーを訪れたミネルバIIIの貴伝名氏に負うところが多いのであります。

第1回レース (43年度)

8月16日 20:00 スタート:別府→山口県八島 (45哩)

参加艇:内海支部より (ミネルバIII 36') (琴塚22') 別府より (牛若丸19') 松山より (勝山22') 広島より (サンセット24') (トリマラン 慢々時 5mJOG) (アンドロメダ19') (あびII 22') の8艇。

これは8月15・16日の台風7号通過のためスタートを8月17日05:00に延期する。しかしかなりのうねりにも不拘タイムリミット18:00まで全艇フィニッシュ。内海の常勝艇の琴塚が16.30ファーストホームで総合優勝する。

第2回レース (44年度)

前年の台風にこりて5月の連休に変更する。

5月3日スタート 22:00 山口県平郡島西浦→別府 (47哩)

参加艇:ミネルバIII 36' やしろ33' ユニティ-21' 牛若丸II 23' フォルト 5mJOG サボー 5mJOG 勝山22' の7艇。

これも16:00より南の風が急に吹き出し、夜半になっても風力計は10~15mを示し、偶々このレースに來られた京都の井上支部長の勧告もあり、別府レースは中止とする。

しかし翌朝06:00~10:00、附近で親善レースを行う。

第3回レース (45年度)

既述の通り悪天候のため中止、しかし山口県屋代島小泊まで進出していたやしろ33' 篠尾28' 瀬戸27' ブルーオーター-21' の4艇で、5月5日 06:00 小泊→大水無瀬→由利島 (15哩) のコースを視界1哩のガスの中で親善レースを行う。

以上のように別府レースは天候に恵まれず、予定通りのスタートをしたことが1回もない状況ですが、毎回かなりの参加艇の申込がありますので、いつかは完全なレースを行いたいと願っています。

なお、別府フリートから別府をフィニッシュにした方が、夜間になっても危険が少なく、目標が多くてとり易く、特に別府の夜景は一きわファイトを燃やすでしょうと申されます。実際別府ハーバーは広くて安全なので少々期間艇を置いて帰っても心配がありません。フィニッシュ後クルーは、ゆっくりお湯に入っていることができるわけですから来年は別府フィニッシュの計画ができたらと希望するものであります。

(田中敬一 記)

内海支部・内海ランデヴー ——年中行事の一つ—— メンバーの動静と個人紹介

内海の年中行事の一つ、ランデヴーが兵庫県相生市に催された（現在ここに有名な石川島播磨造船所がある）開催場所は相合湾の奥深く開錦橋近くの「さくら苑」にて開催。5月3日の定刻12時30分よりやや遅れる事20分、ミネルバーⅢ世の乗員の着席を最後に木村源次郎君の司会で開会、秋田博正内海支部長の挨拶。

感謝状・記念品進呈（前内海事務局長 津田郁太郎氏へ）

秋田支部長より内海支部の創立よりの功績を讃える挨拶と1971年和歌山県国体ヨット部長の重責を担う津田氏へ、激励の言葉があった。

2年後津田氏は再び内海の幹部として再び咲き活躍するとの事で、津田式イデオロギーを打ち立てて活躍されるとのこと。

同席の出席者80名余り、万雷の拍手で津田氏に謝意を表した。

津田氏への何かと「意見」は出る。併し彼は事務局長とは申せ、何分津田氏と奥さん、家族を助手に、ここまで持ち続けながら事務を続けられた。その労苦に感謝すべきだと思う。内海には何もしないで無為に過す幹部がおられる。兎角の意見を発言する方は、まず眼をその人達に注ぐのも正しいのではないのでしょうか。

「内海」の今後の運営、何もしない幹部は隠退する、そして責任感のある人達が真に気の毒ですが奉仕の精神で、内海支部の健全な発展に努力して戴きたい。会員が納得する決算書を我こそはの!? 気のある有望な幹部、候補者の出現を双手を挙げて待っております。

今から20年以前、私達の外洋帆船協会の空気が、ヨットマン気風が、「米国式」といいますが、欧州の型から米式化して参りました。残念ながらシーマン・シップは「技術」と航法の「進歩」とは逆になって一部の人々を除き低下しております。つまり、会員数は徐々に増加して参りました。

が、残念ながら有望な会員が消えていった。私は新米の「事務局」である。私は、この横を向く先輩諸氏と、ぜひ「内海」いや日本外洋帆船協会に戻って戴きたいと願います。

続いて日刊誌の「舵」で「アストロ号の日本一周」で有名なアストロ号艇長、神田孝雄氏の発声で「乾杯」し、この当り全員空腹であり、前日米の雨で会員諸君も大分お疲れの人がおられるので、食事を開始した。静粛にして戴くことを前提に、内海各担当部長の1970年の「計画」を発表して戴いた。

神村正弘先生が担当の「行事計画」を発表された。45年度の内海の最大の行事、神村先生は私達内海メンバーのため、ある時は自動車で単身淡路島西岸にランデヴーの候補地を求めて、ある時は自艇「おのころ丸」で海路で網干より西域の適地を求めて歩かれた。そして最終の地!? 相生市の今日の相生湾の一角の「さくら苑」が選ばれた。先生の内海支部における責任ある行動で、海の男、ヒューマンシップとシーマンシップに徹しられる熱意に敬意を表します。

さらに、6月21日より一週間、大阪港に碇泊するアルゼンチンの誇る外洋帆船の見学の計画発表、内海のランデヴーに又、さらに4本マストの美しい帆船の見学発表、すでに手配済アルゼンチン大使館にて了解済、引き続き見学に好意を寄せて戴いた。ご協力下さった、万博アルゼンチン館パビリオンの館長と、神戸総領事夫妻リベルタード号の「キャプテン」、「バーサ」、「チーフメイト」、「チーフエンジニア」を西宮、関西ヨットにて歓迎パーティを有志で開催する計画を発表された。万博協賛のため、太平洋を一路西へ西へと日本に近づきつつある、リベルタード号にアルゼンチン大使館より無線により連絡され、内海支部の見学および歓迎パーティがスケジュール中に組まれた旨、神戸アルゼンチン総

領事から連絡があった。「オール・スケーサー」4本マストの船長91.75m T.S. (3025TONS) の美しい姿のリベルタード号は（1956年5月進水、今春卒業の数多くの海軍士官候補生も乗り組んでいる。GUNは40mmの広角砲他7門を持ち、日本訪問（大阪、東京）は日本万博に協賛が目的である……（神戸駐在のアルゼンチン共和国、総領事ファン・ハビエール・リナルディーニ氏より聞く）

……神村正弘先生は病院の多忙な勤務の中、私達の「内海」の「行事部長」として、次々と行事構想が練られてゆき、着々実行に移されてゆく。不言実行型のヨット・マン。その業績は「奉仕の精神」に徹し、ヨット・マンとして誰もが切望する（姫路）的形ヨット・クラブを、数多くのヨット・マンの要望に応え、着々と実行され90%が通り完成されつつある。内海のハーバーとして内外とも最右翼的的形ヨット・ハーバーが完成された。神村先生を先頭に、そしてその陰に、汗と油で協力してゆく、前途有望なヨットマンが黙々と「奉仕の精神」に徹し、協力している今日、N.O.R.C内海支部は勿論ヨットマンから切り離せられない。大切な「行事部長」である今年末から神戸の病院勤務から離れ、先生の故郷姫路市に戻り、開業されるとのこと。ますます仕事に多忙となる。的形ハーバーは姫路市の形であるから神村先生とハーバーは接近の度合は密着する。神村先生、有難うございます。

ヤレ！入会金が何万円する、年会費何万円！のヨット・クラブ（私もその高いクラブの一員ですが、住居とハーバーの距離の関係上やむを得ない、弁明でない）的形ヨットハーバーは若きヨットマンの理想郷として発展することを期待しますと同時に、開業されてもますます勤務がキビシクなりましても、私達のヨット・マンのためにご活躍されることを、そして何等かの方法で「おのころ丸」の艇長としてN.O.R.C本部主催の鳥羽レースに参加して下さい。

引き続き司会者木村源次郎君のソフト・ムードの話の運びで、煩惱のヨットマンから洒脱した偉力を会場にただよわす（俗称、この人は雅号を「幻痴庵」と申されるところです。お仕事とは全然別方向の「土」に親しむためか「トックリ」や「皿」に興味があるらしい。木村さん、「ヨット」を忘れないことです。「ヨット」とは「ヨットル」という言葉が世界の何処かのオリンピックのヨットレースに強の言葉らしいが、ヨットル・マン「酔っとなる人」では困る。YAHT・MANであってくれ！ 灘の五郎は陸地です、ヨットは「海」です。眼の注ぐ方向を間違わないで下さい。

紀伊水道レースに参加中、磐若経を唱えた由、いくら暑くても、「ベタ」でも暑さに負けたのかしらんが、レースは神聖である、「お経」も神聖である。「場所が違う。結果2位、あの時君が唱えなかったら「優勝」したのではないか……。

……引き続き、谷川レース担当部長谷川晴彦さん（虎丸）、「安全教育」担当部長「幸福」塚本修さん、45年度の部長方針および計画が発表された。

総務合田督さんは残念ながら沖繩へ「アルテミス」出航中で欠席。賞品担当部長井上部長、スボニチの部長であり仕事のためやむを得ず欠席（スボニチの部長は職業です。ただの賞品担当部長を忘れないようお願いします。合田さん、井上さんのご両名は改めて次の「本部ニュース」の紙面を借りまして45年の抱負・方針・計画を発表して戴きます。失礼しました。内海計調部長そして安全検査副部長の松木哲先生のお話。先生は、気の毒ですがわれわれ事務局長や担当部長は2年の任期で交替するかも知れません。計調部長は変れない……と私は言明しても「内海」では全員「ズバリ」異議なし！ 計調部長とは先生は「息」のある限り止められない。計調部長とはその「運命の星」です。その星を持って生れられたのが松木先生です。よろしくご指導の程（無理をいいません。副部長の神村先生、後藤修君を助手として宜しくご指導の程を）

……内海ランデヴーニュース 話しが長くなりましたので松木先生・谷川さん、塚本さんの45年抱負および計画は次のニュースで発表させて戴きます。そして「内海」メンバーの動静と個人紹介を……報告させて戴きます。

（文責 梶谷 博）

☆1トン・1/2トン・1/4トン

共通のレーティングによるレースを

ワントン・カップレースが初めて行なわれたのが5年前、1965年のことである。スクラッチで同一レーティングの艇がレースをするというこのワントン・カップの考え方は、それが打出された時から国際的に大変な反響を呼び、世界の一流のヨットデザイナー達は競ってワントン・カップのデザインを発表し、しのぎを削る状況となった。

身近かな所でも、関東支部の「竜王」はオリン・ステフェンスのワントン艇だし、神戸の「アルテミス」はR・カーターのワントン艇である。更に太平洋横断シングルハンドレースに参加したドイツの「メックス」もワントンで二年連続優勝した「オブティミスト」の姉妹艇であり、2位でフィニッシュした「ブルー・アルヘージ」（現在の「アオレレIII」）はハーフトンをこれ又、2年連続優勝したアルヘージクラスの艇である。

ワントンカップレースは初めて外洋レースに、同一レーティングの艇によるスクラッチレースの方法を取入れたものだが、その意味ではまさに画期的なことだった。旧RORCのレーティングルールで22.0呎のレーティングの艇であること及び、インターナショナル・クルーザー・レーサー8.0メートルクラスのルールによるクルージングアマモデーションの最低基準が満たされなければならないことが条件だった。つまり、全長36呎前後の手頃なオフショアレーサーだったことがこのワントンのアイディアを成功させた大きな要素の一つだったと思われる。これに対して、ハーフトンは旧RORCの18.0呎のレーティング（全長30呎前後の艇）の線を打出して、ワントンの翌年、1966年に初めて行なわれ、更にその次の年には旧RORCルールで15.0呎（全長24呎前後）のクォータートンの企画が日の目を見るというように、このスクラッチレースの考え方が急速に世界の外洋レース界に取り入れられて来たことがここ四、五年のヨット界の動きできわだった特長といえそうだ。

時期的にはもう少しさかのぼるけれども、やはり最近の外洋ヨット界でもう一つの新しい考え方に、シリーズレースがあるが、これはイギリスのアドミラル・カップレース（1957年より隔年実施）で取り上げられ定着したものだ。これは600哩のファストネットレース、200哩のチャネルレースに、インショアのデーレース（20～30哩）が二つの4レースを各国3艇ずつのチームで競うのだが、単発のレースでは運、不運、その他偶発的な要素によって勝負が左右されることが多いけれども、シリーズでしかも長距離、短距離を含んだレースの場合、レース結果はかなり正確に各艇の総合的な能力を評価することになるので各国で色々な型で取入れられるようになり、NORCでもささやかながら、大島シリーズ、神子元シリーズの型で定着してきた。

〇〇トンカップのレースはいずれもスクラッチで競うという事と、このシリーズレースの考え方を共にとり入れていることが特長的であり、その意味で最近の外洋ヨットレースの世界的傾向を代表しているといえる。

最初からこの〇〇トンカップは外洋ヨットレースの国際的な色彩を強める上で大きな役割を果たしてきたわけだが、本年度から世界共通のレーティングルールが採用されたことによって、このスクラッチレースの考え方は完全に世界共通の土俵を得たことになり、これによって更に飛躍的に発展することになると思われる。

特に今まではRORCを中心としたヨーロッパに殆んど限られていたこの種のレースが、共通ルールを足場にアメリカでも急速に採用されるようになることが明らかな状況となり、これによ

て大きな世界的潮流となると思われる。

特に1/2トン、1/4トンの場合は欧米のヨット産業が完全にFRPを中心としたマスプロ時代に入っていることと考え合せば、全長29～32呎の1/2トン、同じく23～26呎の1/4トン艇がこの大きさの外洋ヨットの一つの指標となることは当然だろう。

新しいIORのレーティングではワントンは27.5呎、1/2トンは21.7呎（6.6メートル）、1/4トンは18呎（5.5メートル）となる。アメリカでは特に1/2トンと1/4トンの発展をうながすため、それぞれソプラニノ盃、トリナ盃を設け、シリーズレースとして本年度から行なうことが決められている。

1/2トンシリーズは約20哩のインショアレースが三つと、約100哩と約200哩のオフショアレースが二つのシリーズとなり、1/4トンは約15哩のインショアレースが三つに約60哩と約100哩のオフショアレース二つのシリーズで競われることになっている。

1/2トン、1/4トンは艇の大きさからいってもあるいはレースの内容からいっても、日本の外洋レースの現状にうってつけと思われるがどうだろうか。

われわれ自身の日本海域でのレースが、共通のレーティングによるスクラッチレースを通じて直接世界の仲間と同じ土俵に上る可能性を持つようになることは画期的なことだし、大いに注目しに値いすることではあるまいか。

（大橋見 薫 記）

IORに基く計測の実施

5/1 現在のレーティング決定

●INTERNATIONAL OFFSHORE RULEに基く計測を次の要領で実施します。

〔I〕計測日程

1970年度は現行レーティング18フィート以上の関東支部所属艇を計測し、18フィート未満の艇並びに他支部所属艇の計測は1971年度に実施します。

計測期間	艇 数
〔i〕SAIL関係を除く計測	
5月	2艇
6月	2艇
7月	9艇
8月	15艇
9月	上記計測予備日
10月～12月	20艇
	計 48艇

〔ii〕SAIL関係の計測

11月～12月 上記計測艇

〔II〕計測場所：シーボニア・ヨット・クラブ

〔III〕計測料：1艇当り ¥18,000.-

〔IV〕IOR説明会

日 時	場 所
5月15日18.30～	NORC本部——※1
6月23日18.30～	NORC研修会——※2

対 象 艇

※1 5月/6月計測艇

※2 その他の計測艇

なお、上記計測日程に基く配艇は計測委員会において行いますので、オーナー各位のご協力をお願いします。

●<レーティング一覧表（1970-5-1現在）> 内容別添の通り。

（周東 記）

◆投稿を歓迎します◆

関谷会長も巻頭へのべておられるように、NORCだよりは皆さん会員の知識・体験・意見など発表の場です。どんな原稿でも結構です。いつでもNORC事務局へお送り下さい。本誌のカットは柏村さん、写真は「舵」誌の提供によるものです。誌上からお礼を申し上げます。

☆沼津フリートの泊地 波静かな内浦湾へどうぞ

NORC関東支部の一番若くて小さいフリートが沼津に生れて最初の夏を迎えようとしています。

この機会に我々のホームウォーターである駿河湾東部とここに浮ぶヨットのことなどを紹介してみたいと思います。

伊豆半島の西岸はさしものマイカー族も今だに侵略しかねている険しい絶壁が海面からそそり立ち、湾中央部で1,000mに達する深い澄んだ海と相まってブルーウォーター派にはこたえられぬ魅力となっています。

また、良港、妻良子浦から波崎を廻って雲見、岩地、松崎、仁科、観光の中心堂ヶ島、遠洋漁業の基地の田子、油壺より安全な安良里、ひなびた宇久津、温泉のある土肥、我国最初の洋式帆船の建造地の戸田と数マイル毎に点在する泊地はドラフトの深いクルーザーにも安心です。

さらに天然記念物ジャクシンが繁り、はまゆうが香る大潮崎をかきわけて我々沼津フリートの泊地のある波静かな内浦湾に入ります。この奥は、駿河湾の強烈な西風にも安全で、多比港を中心にもやいを取っているクルーザーは、沼津フリートの4艇を含め10艇を越えています。今春からは沼津フリートを中心に多比、千本、大瀬、多比を結ぶ15マイルの三角コースで、ローカルのポイント・レースが始まり、第1回は最古参の「はまゆう」がよく走って実時間3時間1分のすばらしい記録で優勝しました。

駿河湾には、相模湾と違い、レースで回航するのに適した小島がないのでコースの選択には苦心しますが、対岸の清水のヨット仲間と協力してマークを設置する等色々な手を考慮中です。先日行われた清水—沼津—清水40マイル弱のレースは、そのテストケースとして見ることもできそうです。

今のところ、相模湾のレースやパルレース等に遠征する艇はありませんが、将来はどんどん足を伸ばす艇が増加するものと期待しています。その意味でも、今夏進水が予定されている「ロイII」(チタIIIとほぼ同型艇)は、当地のヨットマン達の興味と期待を集めています。

この「ロイII」のオーナー白井氏は、東京オリンピック5.5m級の日本艇「ロイ」の現オーナーでもあり、沼津の海をセーリングする「ロイ」の姿は、当地を訪れるヨットマンの目を引いています。

以上簡単に当地の模様をご紹介しましたが、今後西伊豆ヘクルージングされる皆様は、是非内浦湾の奥へも航路をのぼされることを楽しみにベンを置きます。

なお、今年度の当フリートのスケジュールは、6月までポイントレースのスプリング・シリーズ、10—12月(第2日曜)は、オートム・シリーズ、7月19日と9月20日には駿河湾横断レースを計画しています。

(湯浅 明彦 記)

〈メモ〉

ミス・サンバードの山崎達光氏より計測用テングー2隻並びに油つばポート・サーヴィスの福留清氏より同ボースンチェアの寄贈を受けました。誌上を通じて厚くお礼申し上げます。

☆レース派かブルーウォーター派か

日本オーシャン・レーシング・クラブだから、レースを中心に運営して行くべきだ、という主張と、日本外洋帆走協会だから、何もレース中心ではなくてブルーウォーター派もはば広く包んで行くべきだ、という主張とが現実にはげしくぶつかっているかどうかは知らないが、あるようである。

ヨットとは、海の中に金を捨てるために海に浮かべてあるアナである、といった人がいるそうだが、特にレースにいつもいい成績をとろうと努力している人びとにとっては至言中の至言となる。レースに勝つためには、とにかく金がかかる、というのは事実で、アメリカ盃や15メートル・クラスの歴史をふりかえるまでもなく、自動車のレースにしても、モーター・ボートのレースにしても、レースに勝つということは、技術とか何とかは別として金がかかることなのである。

無限に金がかかりそうなレースに、だからソッポを向いてオレは海に浮かんでいれば満足なのだブルーウォーター派に転向したのか、そもそも人と争うレースなどに興味がなくて根っからブルーウォーター派なのかは知らないが、そういうグループがあることも確かで、しかもそのグループにしても、あまり血まなこにならない楽しいレースをやろうや、などという結構構成してくるものもある。となると、何が何やらワケがわからなくなってきて、NORCも何が何やらワケがわからないままに、レースをやったり、夏祭りなどというドンジャン騒ぎをも開催したり、四方八方に色目を使わざるをえないのであろうか?

実際は、NORCは、世界的に有名なような、外国からも多数参加してくるようなレースを年に1—2回やればいいので、その他はNORC傘下の各フリートなり、ブルーウォーター21クラスなり24クラスなり(まだ出来てないが)がレースやらランデヴーやらをドングリの背丈に合わせてやればいいのではないだろうか? 会社の運動会でも、年齢40歳以上の徒競走なんてのがあるように、船齢5年以上の木造艇クラスのレースなどでもいいわけで、こういうように考えないと、先に書いた、レース気狂い組とブルーウォーター組とのギャップみたいなものを、概念的にも区別できなくなるのではないかと思う。

グラン・プリ・レースのフォーミュラ・カーを持てなければ大きな顔ができない、というのもまちがっているし、ヨットに乗る者が何が何でもレースに出るべきだ、と考えるのも偏狭に過ぎようが、自動車の生産が世界の3位とか2位とかになってはじめてグランプリ・レースが定着したように、ヨットも、もっと裾野が広がってはじめて、各種のドングリの背丈に合ったレースも行われ、機帆船組合や繋留船組合や沖乗り高乗り組合やらが自然とできて、各艇がおのがじしの楽しみ方をして満足することになるのだろう。NORCはそういうのを包括した上部団体であればいいわけだ。

現実の問題として、そこまでいってないクルーザー界のたったひとつの団体として、NORCの役員やら事務局が、ビギナーから国際レース出場の猛者までかかえて、みんなに満足のいくような運営と、苦心していることは、会員の一人として、まことにご苦労さまなことだと感じ入らざるをえない。

どうかこれからも、現役のヨットマンによる、ヨットが好きでたまらない人のためのクラブであるという、強いバックボーンをしっかりと守って、きれいな運営を続けていただこう、心から願うものである。

(WAY)

◇ご苦勞様でした！

おしまれる
麻里事務局長の退任

NORCの“生き字引”でもあり、何から何までこまめに引き受けて、事務局を文字どおり背負っていただいていた麻里真三事務局長が、6月半ばをもって退任されることとなりました。

“NORC”といっても事務局らしいものもなく、飯島専務理事（当時）がご自分のオフィスで仕事をしておられたような昭和40年4月1日から、専任の事務局員としておいでをいただいたわけですが、以来まる5年、本当にご苦勞をお願いしました。現在のように一応の体裁を整えることができたのも、麻里事務局長のご奮闘に負うことが多く、最大級の讃辞をもってその功績をたたえたいと思います。

周囲から再三慰留もしたのですが、辞意固く、やむなく退任のお申出をお受けすることになったものです。しばらくは5年間のアカ落しと骨休めにあちらこちらと旅行でもしたいというようなことも洩れうけたまわっておりますが、ますますのご健康を祈りながら拍手をもってお送りしたいと思います。

後任としては目下鋭意人選中ですが、麻里事務局長のような恰好の人柄はめったになく、女性の書記を後任に当て、足らないところを高村常任理事をはじめ本部各委員がお手伝いすることとし、“生き字引”のいないあとの体制をとることにする予定です。

なお、先号でお知らせした事務局員関娘退職のあとは、とりあえず早川嬢が常勤のアルバイトとして勤務しておりますので、併せてお知らせいたします。

（総務 名和）

◇関東支部夏祭りのお知らせ◇

関東支部の夏祭りも、今年で第3回目を迎えます。ご好評にこたえて、一昨年、昨年に劣らない充実したオマツリをと、委員一同大張り切りで準備にかかっておりますから、どうぞご期待ください。

期日 8月1日(土) 夜パーティ

8月2日(日) 海上運動会

場所 シーボニア・ヨットクラブ、または油壺湾

はじめの方もおられますから、夏祭りのもようをご紹介しますと、第1回が約300名、第2回が約350名と、会員、家族、友人知人がマイカーや海からマイヨットで参加され、今年は恐らく400名近くの参加者があるのではないかと予想されます。

パーティ会場には円テーブルや椅子が並べられ、ビールの栓が抜かれ、おせんべいの山がみるみる片づけられ、といった有様で、会長の開会のご挨拶の頃には、すでに宴たけなわといった感じ。新入会員、女性会員の紹介や、バンドの小休止の間に仕掛花火、打上げ花火が夜空と海面に映え、「タマヤー」「カギヤー」の歓声と拍手。

テーブル毎に、あるいは芝生に円陣を作って飲みかつ食いつつシャベリのグループも、ビール、ウイスキーの空瓶が増えるに従ってグループ同志が入り混じり、ゴーゴーダンスが繰り広げられるなど、古い会員も新しい会員も、レース常連の顔見知りもレース敬遠のブルーウォーター派も、ヨット乗りは皆仲間と楽しい一夜を過ごします。飲み足りない人は海上バーへどうぞ、という趣

向もあり、余りの盛況に隣近所に迷惑になるのではないかと、委員一同厳しく反省するといった一幕もありましたが、年1回のことであり、隣近所の人びとも一緒に参加してもらい、かつ閉会時間など規律正しくして、ということで、今年も盛大にやることになった次第。しかしヨットマンらしいケジメはきちんと守るようお願いします。

翌日は海上運動会、テンダー漕ぎ競争や、テンダーの綱引き等、ヨット仲間ならではの面白い運動会が繰りひろげられ、賞品やおみやげを抱えて散会です。

日頃レースにも出てないのでどうもオックウと思われる方も、こういうオマツリこそ絶好のチャンスですから、家族友人誘いあつてぜひ参加されますようお願いいたします。

会費はオーナー2,000円、一般1,000円の予定です。

会員及び登録艇の現状

(45. 5. 15現在)

	特別会員	正会員	準会員	合計	登録艇
関東支部	190	597	32	819	200
東海支部	37	92	1	129	32
京都支部	14	31	1	46	14
内海支部	33	66	16	115	31
西内海支部	14	28	—	42	14
合計	288	814	50	1152	291

◇6月～8月の本部及び関東支部の行事予定◇

6月

6日(土) 関東支部オーナー会議とNORC緊急総会

7日(日) 関東支部相模湾ポイントレース

16日(火) 常任委員会

23日(火) NORC研習会、高村理事の法規解説と周東計測委員の計測・レーティングの説明。非常に有益な講義ですから多数ご参加下さい。会費は500円。

27日(土) 関東支部第2回初島レース、スタート。

7月

5日(日) 関東支部相模湾ポイントレース

14日(火) 常任委員会

24日(金) 鳥羽パールレース、スタート

8月

1日(土) 関東支部夏祭り。夜パーティ

2日(日) 同上、海上運動会

11日(火) 常任委員会

◇本部事務局よりのお知らせ◇

前号NORCニュースにて予告いたしました「NORCヨット用ログブック」が納品在庫しましたからご利用願います。

なお、現物見本として各支部事務局に配布してあります。

価格は1冊 ￥500 (送料は￥115かかります)。